



●コジエーカナメモチ群集

六甲山の低海拔域（450m以下）において、お寺の林として保護されてきた立派な林です。六甲山が広くはげ山だった時代にも、林として存在していたことが、江戸時代末期の絵図や明治時代初期の地形図などからわかっています。



●ウハメガシ群落

ウハメガシの林冠が連なり、まるで、林の上に濃い緑のカーペットを上げたように見える林です。海岸沿いの急斜面に見られる林で、六甲山では須磨地区周辺に広がっています。



●アラカシ群落

林冠にアラカシやヤマモモ、ヒメズリハなどが優占する群落です。谷沿いの急傾斜地に成立している常緑広葉樹林の多くはこの群落です。表六甲の山麓を中心に、分布が広がっています。

V. 整備が必要な樹林

六甲山は緑を取り戻しましたが、六甲山の樹林の中には土砂災害防止上好ましくない状態のものもあります。こうした樹林は、さらに人の手により、適正な整備・管理を行っていく必要があります。

樹林整備を必要とする植生としては、以下のような植生があげられます。

（高木林：良好な樹林へ転換する必要がある樹林）

●ニセアカシア群落

ニセアカシアは根が浅く広がるため倒れやすく、また、ネザサが生い茂っているため、次世代を担う後継樹が育っていません。



森林の様子



倒木したニセアカシア

●スギ-ヒノキ群落

スギ、ヒノキの植林です。間伐を行わないと林の中が暗くなり、下層植生が発達せず土砂流出が起こりやすくなります。



森林の様子



ヒノキ（左） スギ（右）

●モウソウチク-マダケ群落

林床が暗く、後継樹が育ちません。放置しておくと周囲に広がります。



森林の様子



マダケ
節の突起が2本



モウソウチク
節の突起が1本

(草本群落・低木林：良好な樹林へ転換する必要がある植生)



●クズ-フジ群落

クズが生い茂っており、他の植物はほとんど生えていません。

●ススキーネザサ群落

ネザサが生い茂っており、他の植物はほとんど生えていません。



(高木林：手入れが必要な樹林)

●落葉広葉樹林の下層に常緑広葉樹の多い林



落葉広葉樹林の低木層にヒサカキやヤブツバキなどの常緑広葉樹がすき間無く生育しています。林の中が暗くなり、草本植物が生えておらず、土砂流出のおそれがあります。

●ネザサが生い茂っている

林床にネザサが生い茂っているため、地表は暗くなり、他の植物はほとんど生えていません。



V

整備が必要な樹林

V

整備が必要な樹林